

# 自動販売機の設置事業者を募集します

市庁舎などの市有地に設置する自動販売機の設置事業者を、公募型プロポーザルで選定します。参加を希望する事業者は、お申し込みください。

※後日、提案書を提出してください。

**申し込み方法** 2月14日(水)、午後5時15分までに直接、参加申込書を財政課財産管理係(行政棟2階)へ。

※参加申込書は市ホームページからダウンロードしてください。

**提案書提出期間** 2月19日(月)～3月2日(金)(土、日曜日を除く)

※詳しくは、市ホームページをご覧ください。

**問い合わせ** 財政課 (☎内線 1232)



美術博物館は2カ月ぶりの開館です!

## 「福沢一郎 反骨と諧謔」

美術博物館は、空調設備の更新工事のため、12月から1月まで休館していました。長い間皆さんにはご迷惑をお掛けしましたが、2月1日から2カ月ぶりに開館します。

開館に合わせて、福沢展示室では展示替えを行いました。「福沢一郎 反骨と諧謔」と題する展示です。

少し難しい主題ですが、「反骨=権力などに抵抗する信念」と「諧謔=しゃれや滑稽」は、福沢一郎のおよそ65年に及ぶ画業の根底を支えていたものであり、福沢作品の随所に読み取ることができます。本展では、既存の価値観に対する反逆や痛烈な社会風刺といった福沢独自の姿勢が表れた作品を展示し、福沢作品の本質に迫ります。

**期間** 7月22日(日)まで(予定)  
**観覧料** ▷一般210円 ▷65歳以上、大学・高校生100円 ▷中学生以下無料  
 ※企画展開催期間は、別料金。



《爬虫類はびこる》1974年



《悪のボルテージが上昇するか21世紀》1986年

# 市民の文芸

## 俳句 高橋 洋一 選

火の山の欠伸せるかに眠りをり  
 一切を枯野にしたる力かな  
 川溜れて水際の石に水位跡  
 納棺の小窓に明かり小春の日  
 枯菊の黄色に残る生命かな  
 湯上がりや引戸の隙間香る柚子  
 あの音は昭和の音や十日夜  
 墨の香の残る塔婆や冬日向  
 製糸場冬パンジーのおもてなし  
 群雀刈田に餌を探す夕

(下黒岩) 吉田シズ江  
 (上黒岩) 本多八千代  
 (富岡) 黒澤 克美  
 (富岡) 小池はるみ  
 (野上) 福田 恵子  
 (神農原) 上原 良雄  
 (上小林) 岩井 進  
 (中高瀬) 佐藤 強  
 (富岡) 橋本 節子  
 (黒川) 佐藤 幸三

## 短歌 杉山 郁子 選

ぼかぼかの日溜りて咲くセラニウム鮮やかなピンク新年祝  
 冬より記念艦「三笠」の見学に日露戦争の歴史を学ぶ  
 土曜日の朝毎楽しみテレビ観る「題名のない音楽」を  
 夕日背に歩めばわが影長く伸び木の葉音なく舞ひて行きた  
 り流星の瞬時の光見つめつつ平穏祈る寒き夜半に  
 タ立ちに留守の我が家の干し物も取り込みくれし隣家の主  
 婦落人の里に住みいる叔母たちは谷川の芦も分け合いて摘む  
 古き機懸らせんと取り組めど尋ねる人なく手も止まりがち  
 人はみな紅葉愛でるそのわきに十月桜はひと咲きおり  
 桑摘みの祖母の隣にチャンバラの剣持ち立ち立てる吾の写真見  
 つけぬ

(七日市) 宮 和子  
 (七日市) 新井 逸子  
 (一ノ宮) 赤石 静江  
 (南蛇井) 横田 久子  
 (下高尾) 金田 照治  
 (七日市) 大滝 松代  
 (七日市) 恩幣 森造  
 (下高尾) 小林 勝明  
 (富岡) 橋本 節子  
 (後賀) 黒田 修司

## 詩 宮前 利保子 選

思いの役目  
 ときどき  
 ふっと わき出る思ひ出  
 たとえば 訪ねた駅の  
 ホームから見る 山脈だったり  
 傾いた ベンチだったり  
 飛ばされまいと 押さえた帽子の  
 西日の温もりであったり  
 裏切らない 思ひ出の役目  
 変わらない終の葉に 理由を問えば  
 古いものから 新しいものへと  
 受け継がれてゆく  
 流れを見送る 勇気だと言う  
 それでも  
 テントウ虫を 生のブローチだと  
 自慢してつけた時代が  
 現代の骨組であることを  
 忘れてはならない

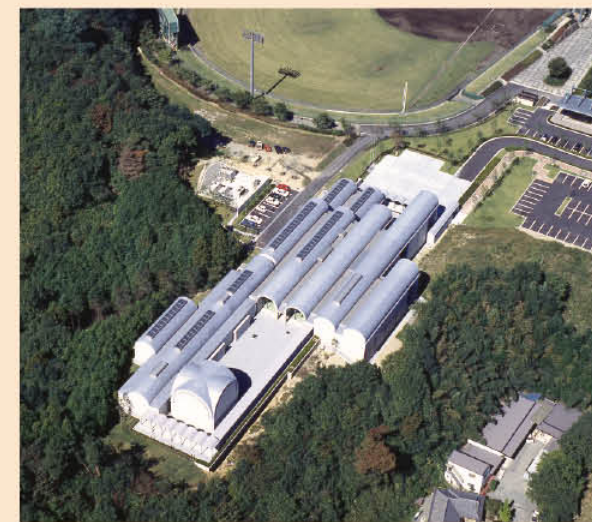
## 川柳 黛 極 選

先のこと思ひながらの墓参り  
 スーパーで定価を見てはそっと置き  
 平穏な地域の中で子は育ち  
 食欲に生きる気合を覗かせる  
 複雑な初場所を待つファン層  
 十五日年金組が活気づく  
 正月は昔風揚げ今ドローン  
 朝出でて夕影となるデイの帰路  
 父帰りにらと面付け鬼は外  
 古希を過ぎメタボの息子注意する

(岡本) 轟 陽子  
 (宮崎) 山田しげ子  
 (下高尾) 金田 照治  
 (富岡) 金井 君代  
 (富岡) 田島八千代  
 (一ノ宮) 大野 里子  
 (七日市) 浅川 幾雄  
 (富岡) 大河原富美  
 (黒川) 原田利恵子  
 (富岡) 新藤とし子

## 美術博物館の紹介

美術博物館は、県立を除き県内初の本格的な美術館・博物館として、1995年に開館しました。設計は、美術館や文化施設などを数多く手掛けている柳澤孝彦+TAK建築研究所です。



## 美術博物館でピアノを弾いてみませんか?

ご自由にどうぞ

「魅力ある美術博物館づくりのために」と、甘楽町在住の宮川真澄さんが、アップライトピアノを寄付してくださいました。



宮川さんは、若い頃本市に居住していてピアノ教室を開き、子どもたちにピアノを教えていた人です。

美術博物館では、早速1階ロビーに設置し、来館者に自由に弾いていただくことにしました。音色に深みがあり、とてもすてきなピアノです。広々としたエントランスホールでピアノを弾いてみませんか。ご来館をお待ちしています。

**会場・問い合わせ** 美術博物館  
 (黒川 351-1、☎62-6200)